



2026年2月期
決算説明会資料



2026年4月14日
株式会社 アークス 代表取締役会長・CEO 横山 清

2026年2月期通期決算 2027年2月期業績予想

1. 業績サマリー
2. 2026年2月期 連結業績ハイライト
3. 2027年2月期 業績予想
4. 株主還元・配当政策について

株式会社アークス
取締役副会長・CFO 古川 公一

1. 業績サマリー

・2026年2月期 総括

売上高は6,269億円となり、過去最高額を更新

- ・ 売上高前年比103.1%、既存店売上高前年比102.9%と伸長
- ・ 既存店客数の増加（前年比+0.4pt）、地場商品や惣菜関連の強化と、値頃にて販売した米の売上等が寄与

営業利益は176億円となり、前年比110.6%の増益

- ・ 商流統一による原価低減、カテゴリーマネジメントやオペレーション共有等の取組み
- ・ 販管費コントロールにより販管費前年比102.3%に抑制
- ・ マンアワー管理表活用による人時売上高確保への取組み推進

・2027年2月期 業績予想

売上高は6,480億円（前年比103.4%）の見通し

- ・ 新インフレに対応した新納得価格での訴求
- ・ 積極的な新店及び改装投資と競合店対策による増収
- ・ アークスグループ限定商品・地場商品などの展開強化

営業利益は過去最高額である180億円（前年比102.1%）の見通し

- ・ 商流統一やセンター活用による原価低減に向けた取組み
- ・ グループ各社の好事例の横展開による生産性向上及び業務効率化の徹底
- ・ 事業会社間の収益格差の是正（低調事業会社の業績改善）

2. 2026年2月期 連結業績ハイライト

売上高は過去最高額を更新。販管費を予算内執行し、対前年比で各段階利益すべて増益となりました。

(億円)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	通期実績
売上高	1,542	1,593	1,510	1,621	6,269
前年比	103.7%	103.6%	102.8%	102.2%	103.1%
予算比	100.6%	100.9%	100.2%	100.8%	100.6%
売上総利益	386	397	380	414	1,578
前年比	103.5%	104.0%	103.1%	102.2%	103.2%
予算比	99.7%	99.8%	99.8%	100.2%	99.9%
売上総利益率	25.0%	24.9%	25.2%	25.5%	25.2%
販管費	347	356	341	356	1,401
前年比	103.9%	102.1%	100.4%	103.0%	102.3%
予算比	99.6%	99.2%	97.4%	99.8%	99.0%
売上高販管費率	22.5%	22.3%	22.6%	22.0%	22.4%
営業利益	38	41	39	57	176
前年比	100.1%	124.8%	135.0%	97.7%	110.6%
予算比	100.3%	105.6%	127.4%	102.9%	107.5%
売上高営業利益率	2.5%	2.6%	2.6%	3.5%	2.8%
経常利益	42	45	42	61	191
前年比	99.3%	122.0%	130.0%	97.5%	109.2%
予算比	99.8%	105.0%	123.4%	102.3%	106.5%
売上高経常利益率	2.7%	2.8%	2.8%	3.8%	3.1%
当期純利益	27	29	27	39	124
前年比	105.1%	124.8%	136.2%	98.2%	112.5%
予算比	101.4%	104.1%	122.8%	117.1%	111.1%
売上高純利益率	1.8%	1.8%	1.8%	2.4%	2.0%

売上高・売上総利益：

米の値頃価格での販売に加え、物価高・節約志向に対応した納得価格が支持され、既存店客数は前年比100.4%と増加。

売上高が堅調に推移したことに加え、グループ規模を活かした商流統一やカテゴリマネジメント、オペレーション共有化等の取組みにより、総利益率が前年比+0.1ptの25.2%となったことから、売上総利益は前年比103.2%となった。

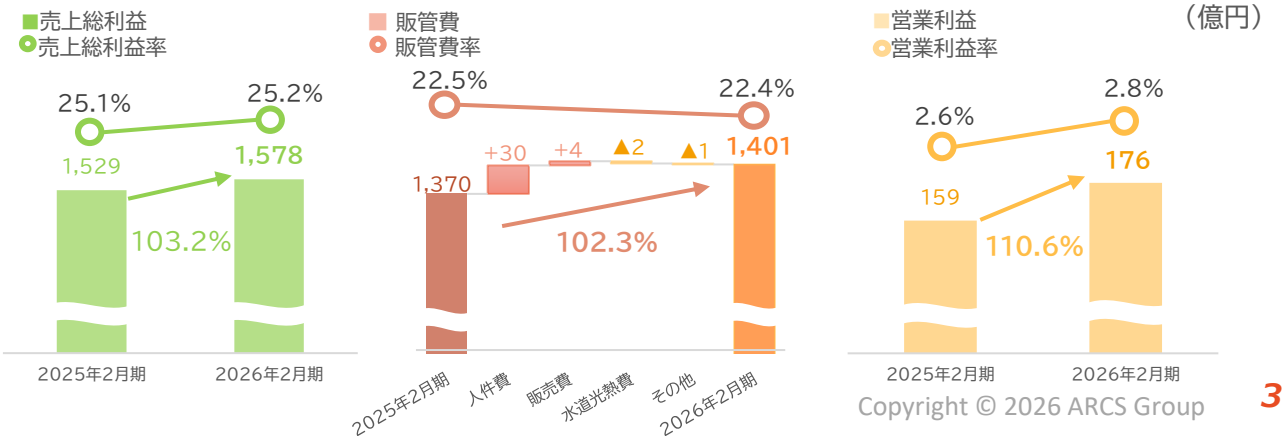
販管費：

人件費において、パートナー社員の作業改善やマンアワー（MH）管理表を活用した人時売上高向上の施策により、残業時間を削減した。

第4四半期は業務効率化及び店内照明等の修繕・備品への投資を実施。通期累計では予算内執行（予算差▲14.1億円、予算比99.0%）した。

営業利益・経常利益・当期純利益：

売上総利益の増加及び販管費コントロールにより、前年比は営業利益110.6%、経常利益109.2%、当期純利益112.5%と増益となった。



3. 2027年2月期 業績予想

売上高、営業利益、経常利益を過去最高数値にて計画。予算達成に向けて各種施策に取り組んでまいります。

(億円)	2026年2月期 通期実績
売上高	6,269
前年比	103.1%
売上総利益	1,578
前年比	103.2%
売上総利益率	25.2%
販管費	1,401
前年比	102.3%
売上高販管費率	22.4%
営業利益	176
前年比	110.6%
売上高営業利益率	2.8%
経常利益	191
前年比	109.2%
売上高経常利益率	3.1%
当期純利益	124
前年比	112.5%
売上高純利益率	2.0%

2027年2月期業績予想		
上期	下期	通期
3,235	3,245	6,480
103.1%	103.6%	103.4%
811	826	1,637
103.5%	103.9%	103.7%
25.1%	25.5%	25.3%
726	730	1,457
103.3%	104.6%	103.9%
22.5%	22.5%	22.5%
84	95	180
105.6%	99.2%	102.1%
2.6%	2.9%	2.8%
92	104	196
105.0%	99.9%	102.3%
2.8%	3.2%	3.0%
60	64	124
105.0%	95.1%	99.6%
1.9%	2.0%	1.9%

売上高

- ・新店4店舗及びスーパーアークス化を含む改装を20店舗を予定、加えて 競合店対策の徹底
→既存店売上高前年比103.5%
- ・CGCグループ及び新日本SM同盟との協業、イベントやキャンペーンの拡大、アークスグループ限定商品や地場商品の展開
→新納得価格の訴求による客数確保
- ・アークスアプリでのAI販促機能の導入検討

販管費

- ・人件費857億円を計画(前年差+39.7億円、前年比104.9%)
- ・生産性向上の取組み
→生鮮食品における発注業務のAI活用化、青果用自動包装機導入
→作業習得表の仕組を横展開し、パートナー社員の多能工化、戦力化を図り、人手不足を補完、生産性の向上
→マンアワー(MH)管理表を活用し、人時売上高の向上、人員の適正配置、残業時間の削減

事業会社間の格差是正

- ・低調事業会社への「ヒト・モノ・カネ」の経営資源投入
- ・棚割りや定番・お買い得商品等のオペレーション共有化
- ・アークスグループの規模メリット最大化

4. 株主還元・配当政策について

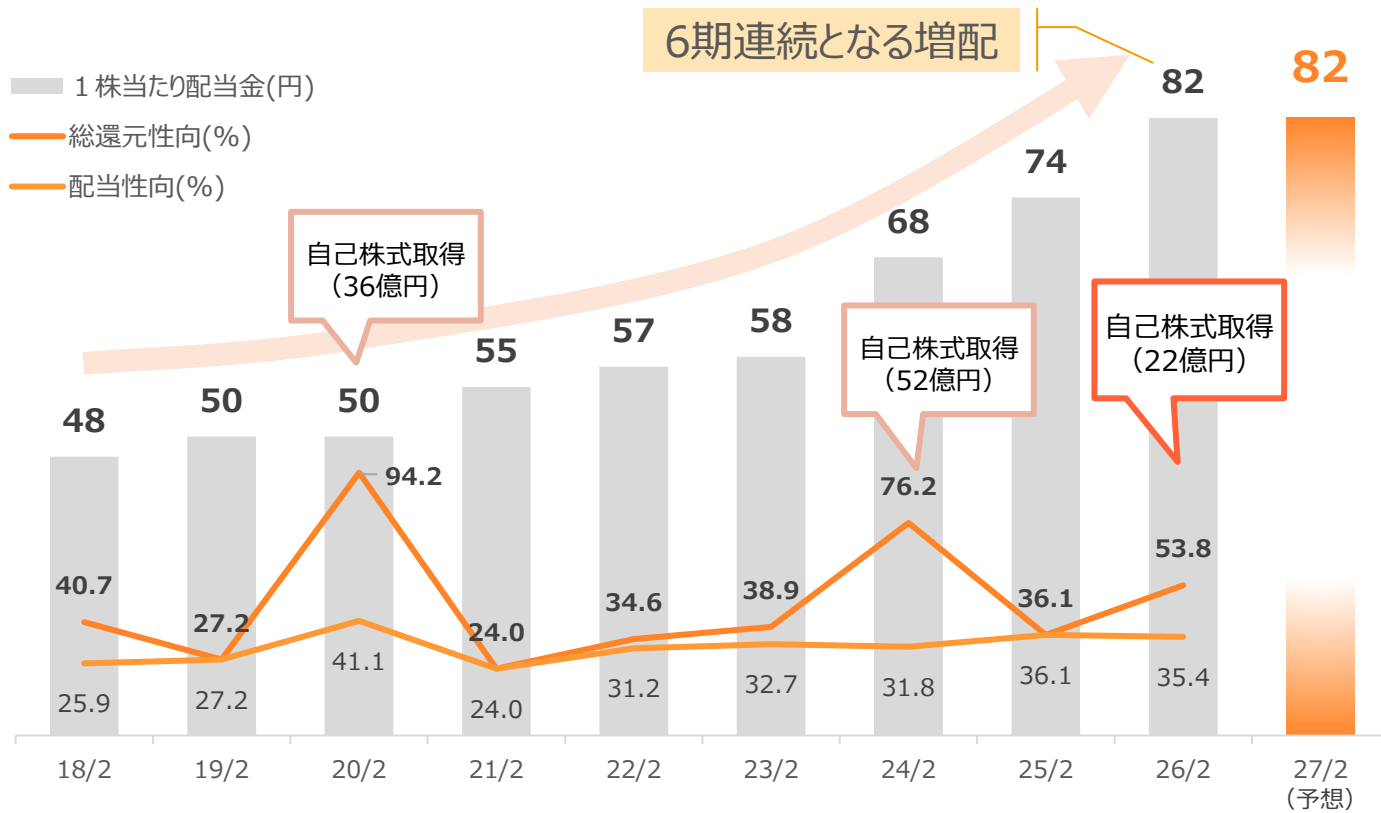
株主還元方針

配当性向

40% を目指します

配当金

2027年2月期 1株当たり 82円 予想



2026年2月期

22.9億円の自己株式取得を実施
 期末配当を8円増配し、年間82円の
 配当実施を予定

※2026年2月16日に6円増配を決定、
 4月13日に2円の追加増配を決定しました。

2027年2月期 見通し

1株当たり配当金82円予想
 (中間41円、期末41円)
 配当性向40%を目指し、積極的な株主
 還元の推進、及び資本政策の強化し、
 企業価値向上に取り組んでまいります。

「株主資本配当率(DOE)」を意識しながら長期安定的な累進配当を実施

アークスグループの 取り組み

1. 時代の変遷と流通革新
2. 新納得価格で明るく楽しく前むきに邁進
3. アークス設立30周年に向けて

株式会社アークス
代表取締役会長・CEO 横山 清

1. 時代の変遷と流通革新

昭和元年 (1926年)
人口約6,000万人

昭和83年 (2008年)
人口約1億2,800万人 (ピーク)

人口は減少傾向へ

日本の
総人口

業界大手企業が北海道へ進出

業界大手企業が
再編・撤退

新興勢力が
北海道・東北へ進出

第1次流通革命

第2次流通革新

インフレ

デフレ

インフレ

昭和元年 1926年 昭和10年 1935年 昭和20年 1945年 昭和30年 1955年 昭和40年 1965年 昭和50年 1975年 昭和60年 1985年 昭和70年 1995年 昭和80年 2005年 昭和90年 2015年 昭和100年 2025年

三
新
新インフレ
新参入
新納得価格

第1次
流通革命

1970年代に業界大手企業が
北海道に進出後、
2020年代に
再編・撤退するまで

第2次
流通革新

2020年代、インフレ下で
ディスカウンターや
オンラインショップなどの
新興勢力が北海道・東北へ
進出して以後

2. 新納得価格で明るく楽しく前むきに邁進

世界情勢が不透明感を増すなか、エネルギーを始めとしたあらゆるコストが高止まりしている。
インフレが続いていく中実質賃金は伸び悩んでおり、消費者の節約志向は根強い。

**インフレ続く時
賃金物価の壁
を生産性向上で
突破し好循環
実現に全力投球**
令和七年元旦
会長 横山清

▲令和七年年頭所感

新インフレを凌ぎ 賃金・物価が変則的に移り変わる中でも生き残る

新参入とも共進 競合は成長の糧 互いに競いながら高め合う

新納得価格で 新しい価格体系のもと生産者も消費者も「納得」を追求

明るく楽しく前むきに邁進

**新インフレを凌ぎ
新参入とも共進
新納得価格で
明るく楽しく
前むきに邁進**
令和八年元旦
会長 横山清

▲令和八年年頭所感

3. アークス設立30周年に向けて

Try One Trillion!

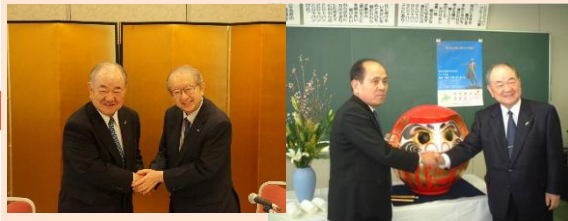
アークス設立30周年 (2033年2月期)

売上高目標 1兆円以上

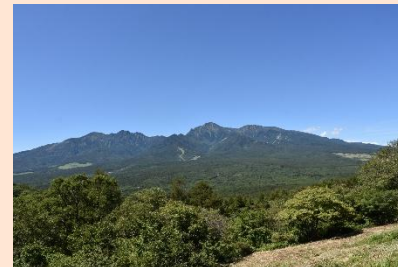
新日本スーパーマーケット同盟



M&A
(Mind & Agreement)



八ヶ岳連峰経営



CGC



ご清聴ありがとうございました

